

ナ開堂シ其給料ヲ増加スル者トス

第五條

一右日給ヲ給スルノ外家屋ヲ賃渡スヘシ且ツ本人ノ望ニ依テハ現給ヲ給スルモ妨ケナシト雖モ其費用ハ日給ノ内ヨリ扣除スヘシ

第六條

一若シ業前アル者ハ右ノ年給ト給額ニ拘ハラズ業前ノ巧拙ニ隨テ相當ノ日給ヲ給スヘシ尤公暇其他出業セザル日ハ給セザル等總テ第三條ニ同シ

諸達伺公報

○警視廳乙第六號 區役所、兵長役場 明治九年一月二十三號達實野野中(罰金)トアルヲ(過料)ト改正シ及第六條刪除條此旨相達候事

○內務省衛生局報告第三十八 警視廳總監樺山實紀 明治十六年五月四日發行

當局所屬製藥所ヲ廢シ藥品試製所ヲ設置ス此旨報告ス但位置ハ東京府下下谷區二長町一番地トス

○明治十六年全國傳染病患者週報 自四月十五日(第十六回)至五月廿一日

Table with columns: 病名, 新患者, 積患者, 死亡. Rows include 虎刺, 腸室扶私, 赤痢, 實布埜里亞, 發疹室扶私, 痘疹, 合計.

○本年三月常省警外連(米商會所株式取引所)仲買人税金徵收方法第五條中(其預)切付ヲ添ヘトアルハ右證書ヲ預リテ印ヲ得テノ試

○明治十六年五月十日 大藏書記官

叙任賞勳

○明治十六年四月廿七日分 栃木縣令 從五位 藤川 爲親 海軍大主計 正七位 八田 良種

○四月廿六日分 正六位勳三等 田邊 長顯 叙從五位

時事新報

○士族教育 藤野小庵 投稿 時事新報第三百五十一號ニ士族教育宜シ其精神ヲ養フ可レト題シ士族ノ就産ハ力役自活ノ業ニ服スルモ其自身ヲ職業ニ墮落シタルノ思ヲ爲カシメザルノ要ヲ論シ肉休

ノ苦ヲ與フル中ニ精神ノ快樂ヲ享ケム可キ旨ヲ説カレリ我輩之ヲ三復シテ感歎ニ堪エズ記者先生モ机ニ對シテ稿ヲ起スニ涙落テ紙ヲ濡スヲ知ラズト云ハレタルガ我輩モ之ヲ讀シテ涕淚ノ畦ニ溢ル、チ覺エザリシ嗚呼士族ノ心事ヲ察スル太ク親切ナルコトアラザレバ安ク能ク此ノ如ク懇到ナルヲ得可クヤ從來士族就産ノ法ヲ談スル者甚ダ多シト雖モ此要訣ヲ知ラズ徒ラニ舊弊ヲ破碎シテ士族ノ精神ヲ苦メタルモノ甚ダ少ナカラザルガ如ク例ヘバ廢藩ノ時コ方テ一朝士族ノ等級ヲ廢シ家老足輕相偶同シ農工商及ビ新平民トモ交際禮遇ヲ平等ニスル等勉テ舊慣ヲ破リタルハ畢竟士族ノ氣象ヲ挫折スルノ惡意ニ非ズ唯其門閥ノ流弊ヲ矯メントシタルモノナラント雖モ一弊除去シテ第二弊ヲ生シ其家固有ノ門閥ヲ棄ルニ兼テ又其身固有ノ行狀ヲ併セテ之ヲ棄ルニ及ビタリ然リト雖モ不行狀ハ以テ生計ヲ求ルノ方便トスルニ足ラザルノミナラズ却テ益困窮ニ陥リ家計窮シテ身分賤シ其氣常ニ餒ヘテ力食自活ノ勉強心モ習起セザリシ有様ナリ右ハ一時己ムヲ得ザルノ必要ニ出タルモノナリト雖モ今日日之ヲ見レバ軍口徒勞ノ屬シタリト謂ハザル可クヤザルナリ情今日ニ及テハ世態全ク一變シ士族モ最良舊習ヲ墨守シテ浸ク威權ヲ弄セントスル者ノ如クハ絶テ有ラザル可クレバ仮令ハ固有ノ風ヲ存スルヲ勉ムルモ毫モ弊害ヲ見ザルベシ然レバ則チ記者ノ説ク所管ニ授産ノ要ヲ得ルノミナラズ又其發言ノ時ヲ得タルモノト謂フ可キナリ記者又云ク士族ニ生計ノ道ヲ授ケントスルハハ之苦役ヲ與ルハ可ナリト雖モ其苦役ヲ裝フニ社會上流ノ体面ヲ以テスルハ極メテ緊要ノ事ナリト信ズ其法他コアラズ服從中ニ士族固有ノ風ヲ存シテ官階應對ノ趣ヲ改メザルコトナリ舊藩時代ノ禮儀廉恥ヲ壞ラザルコトナリ、家ニ在テハ夫婦親子相互ノ稱呼ヲ舊ノ如ク守ルコトナリ、祖先ノ忌日祭ルニ錢ヲキキ其日ヲ忘レザルコトナリ、子弟ノ教育意ノ如クナラザルモノ學ヲ可キノ道理ヲ説クコトナリ云々ト以上ノ數項皆多少士族ノ精神ヲ養フニ足リテ生産勉強ノ助トモ爲ル可キ疑ナク容レズト雖モ我輩ハ實際ニ今一步ヲ進メテ或ハ士族ニ帯刀ヲ許スコト昔ノ郷士ノ如クシテハ如何トマアモ思考シタレバ今日ノ時勢ニ於テハ其所置願ル種カナラズ又其餘弊モ少カラザル可クレバ別コ之ニ代ルベキ事物ヲ考ヘザル可ラズ依テ我輩ハ刀劍ニ代ルベシ銃砲ヲ以テスルノ便宜ヲ發見シテ即チ多ク士族ヲ兵士ニ高ルコト是レナリ今ヤ全國兵ノ制度ニシテ士農工商均シク兵役ヲ帶ルハ勿論四民共ニ之モ寬假スルコトナク之ヲ徵募スベシト雖モ士官學校ノ細キハ可成的士族ヨリ徵募スルコト注意シタラバ目下海軍擴張ノ時ニ方リ兵員ヲ増加スルニ從テ士官ノ數モ亦多ク要スルベシ之ヲ私ニ

シテハ無慮ノ士族ヲシテ職業ニ就クノ便ヲ得セシメ之ヲ公ニシテハ國國ノ機關ヲシテ堅固活潑ナラシムベキナリ但今日ノ如ク士官學校ヲシテ東京ノ一箇所ニ限ルハ舊藩士中在々入學ノ志アルモ幼年ノ子弟ヲ東京ニ放置スルノ不便利モアレバ向來舊大藩ノ地又ハ六鎮蓋ノ下ニ於テ各一校ヲ設置シ士族人校ノ便ヲ計ルハ其士族ヨリ多出ルハ自然ノ數ナル可ク然レバ士官ノ數ハ大抵限リアリテ士族ノ數ハ頗ル多クナレバ此一事ヲ以テ士族ノ所ヲ得セシムルコト足ラザルモノアラフ依テ更ニ海軍兵士士族ヨリ高ルコトナスハ其區域モ亦甚ダ廣ク多數ノ需ニ應スルヲ得可シ蓋海軍兵士ノ法ハ鐵兵令ト殊ナルヨリ必ラズ士族平民均一ノ法ニ依ラザルモ差支ナキコトナレハ士族ヨリ徵募スルコト便宜ナランコト是レ獨リ我輩ノ私言ニ非ズ外國人モ亦嘗テ此説アルヲ聞ク

海軍省兵學校御雇教師英國人某氏嘗テ説クナシテ云ク日本コハ勇氣才學ニ富タル士族ノ有ルアルニ何ゾ海軍ノ士官生徒又ハ水兵ヲ募ルニ華士族平民ヲ論セザルコト爲スヤ余ヲ以テ之ヲ見レバ徵募ハ宜シク士族ニ限ル可シトナリ頻リニ其説ヲ主張シタリト云フ今私ニ案スルニ華士族平民ヲ論セザル云々ノハ其主意公中ニシテ面カモ書時ノ等級ヲ排斥シ獎習ヲ一洗センガ爲メ故ク此文官ヲ擧ケタルノ意味モアラフト雖モ外國人ノ眼中素ヨリ一等級ヲ見ス悉皆平等アレバ就中何有用ノ種類ヲ擧フノ考案ハ適當ノコトニシテ所謂傍觀八若トモ云フ可キカ凡ソ士族平民ヲ論セズ兵事ニ要ナル學科ヲ授ケルニ三年乃至五年ニ於テ其學ニ通シ其技ニ熟スルハ大抵同權ナリトスルモ實地戰爭ニ必用ナル勇武ノ氣象ニ至テハ今日ノ士族ナレバ迥ニ平民ノ上ニ在ルコトナラン蓋シ士族ノ子弟ハ父母ノ膝下ニ在テ武家ノ教育ヲ受ケ給フ編レ事ニ臨ンテ心膽ヲ鍊磨シ未ダ兵學校ニ入ラザル前草ノ既ニ小兵士ノ姿ヲナシタル者ナレバナリ依テ爾ラノ向來海陸軍ノ士官生徒及ビ水兵ヲ多ク士族ヨリ募ルコト注意スレバ授産ノ一法ニシテ精神ヲ養フニ足ルモノミナラス又國體ノ機關ヲシテ一層堅固活潑ナラシム可シト記者先生以テ如何トナス

○皇居御造營 皇居御造營ニ就テは是迄其筋ニ於テ評議ありて多分御造營ノともありしやに聞カレタリ此頃聞ク所由れ本御造營は永遠不朽宏壯の宏殿と打建テ海外諸國に對シテも恥かしからぬものとせしむるべし其の出来に當りては三條相國の御命に相續の上ニ一決するべし